

第2回 デジタル技術を活用した自然資本マネジメント普及に関する研究会（意見交換会）		議事概要
日時	2025 年 7 月 14 日（月） 15:30～17:00 ※15 時 30 分までは印旛沼流域の現地視察を実施	
場所	佐倉市役所 会議室	
出席者 （敬称略）	現地視察	西廣 淳（国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長）
	受入側	徳若 正純（佐倉市 経済環境部 理事） 向後 昌弘（佐倉市役所 企画政策部 部長） 和田 泰治（佐倉市役所 経済環境部 部長） 榎 啓幸（佐倉市 経済環境部 農政課 課長） 齋藤 幸英（佐倉市 土木部 治水課 課長） 坂 健郎（佐倉市 経済環境部 生活環境課 気候変動対策室 主査補） 包國 雄太（佐倉市 都市部 公園緑地課 主査補） 出井 健次（千葉県 県土整備部 河川環境課 企画班 班長） 吉田 操（千葉県 県土整備部 河川環境課 企画班 副主査）
	研究者	神井 弘之（日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授） ○座長 村上 暁信（筑波大学 システム情報系 教授） 高取 千佳（東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授） 溝呂木 佑典（政策研究大学院大学 准教授） 丸木 英明（（株）アール・ピー・アイ 業務執行役員）
	行政官	高森 真人（国土交通省 総合政策局 環境政策課 課長補佐）* 横山 紗英（国土交通省 総合政策局 環境政策課 自然環境活用係長） 峰寄 悠（国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 企画専門官） 森山 綾音（国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 係員） 藤本 雄介（国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境調整官）* 中西 滋樹（農林水産省 農村振興局 整備部 設計課 計画調整室長） 細見 勇介（農林水産省 農村振興局 整備部 設計課 計画調整室環境計画技術係長） 本橋 伸夫（農林水産省 林野庁 森林整備部 計画課 首席森林計画官）* 鈴木 渉（環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性戦略推進室長）* 辻田 香織（環境省 自然環境局 自然環境計画課 課長補佐） 和田 光央（環境省 自然環境局 自然環境計画課 企画係長）
	ワーカー	朝廣 和夫（九州大学芸術工学研究院 環境設計部門 教授） 山口 燎（筑波大学大学院システム情報工学研究群） 水川 裕紀子（九州大学芸術工学府芸術工学専攻）
配付資料	—	議事次第 資料1： 出席者名簿 資料2： 行程表 資料3： 印旛沼流域現地視察説明資料 資料4： 佐倉里山自然公園での取組み

*はオンライン参加

現地視察

- ・ 意見交換会の前に以下の内容で現地視察を行った。
 - 草深谷津（印西市）
 - グッドマン BP the Green（印西市）
 - ハツ堀のしみず谷津（富里市）
 - 富里市での意見交換（富里市）
 - 佐倉里山自然公園（佐倉市）

佐倉市との意見交換

1. 佐倉市の佐倉里山自然公園での取組みについて、包國氏（佐倉市役所公園緑地課）より説明を行った。

2. 意見交換では以下の点が話題になった。

自然資本マネジメントの活用と保全に関して

- ・ 保全に加えて、活用の視点の重視
- ・ 学識者の知見活用の有効性
- ・ 市民への丁寧な説明の必要性

地方自治体が自然資本マネジメントを効果的に進める観点から

- ・ 庁内でのメリット理解と上位計画との整合
- ・ 国のモデル事業等の有効活用
- ・ 担当部署と他部局との連携体制の構築
- ・ 市民主体・地元企業を巻き込んだ持続的な体制づくり

学術機関等の調査を活用する観点から

- ・ 機能別の優先エリア特定に向けた調査の活用
- ・ 施策立案における根拠に基づく説明の重要性

補助金以外の費用調達のアイデアの観点から

- ・ 企業の社会貢献活動の活用による費用負担の可能性
- ・ 特例容積率適用制度など複数制度の組み合わせによる財源確保
- ・ 広域的な価値評価・ミティゲーションとの連動の可能性

企業や団体等外部組織との連携の観点から

- ・ 市民団体の主体的関与による長期的な取組の重要性
- ・ 市民団体間の合意形成を支える仲介者の重要性
- ・ 特定個人に依存しないための協議会など組織的な窓口設置の重要性

以上